

頭皮用保冷剤商品化へ

保冷剤製造アイスジャパン（室蘭）は、2年前に開発した抗がん剤治療による脱毛を抑制する効果がある頭皮用保冷剤の商品化に向けて改良を重ねている。保冷剤を入れる専用の帽子を考案し、保冷剤とセットで販売することを計画。同社は「脱毛に悩む患者の精神的な負担を軽減したい」としている。

（久保耕平）



商品化を目指す保冷剤を手にするアイスジャパンの松岡社長

国立がん研究センター（東京）によると、抗がん剤が髪の毛をつくる細胞を攻撃することで脱毛が起きる。頭部を冷やして毛細血管を収縮させることで、頭皮の細胞に抗がん剤が届きにくくなり、脱毛を抑えられるという。

同社は2019年、患者から相談を受けたことをきっかけに、零下18度まで冷やしても固まらない保冷剤を開発。頭部の形状に合わせて曲げることができ、頭皮との密着度が高まり、冷却効果を発揮できるという。抗がん剤の投与前後に使ってもらったことを想定している。

昨年、同社に問い合わせた患者6人に使ってもらったところ、2人は髪の毛の一部が残ったという。この結果を受けて、同社は効果を高めるため、保冷剤の量を増やしたり、

ジェル状の保冷剤が偏らないよう、仕切りを入れたりするなど改良を施した。

さらに、商品化に向けて専用の帽子を考案。使用時に保冷剤がずれないように、帽子の内側に保冷剤と同じサイズの袋を設けた。今後、帽子とセットで患者に使ってもらい、効果を確かめた上で販売する予定だ。

一方、国内では頭皮を冷やす英国製の装置などが医療機器として認められているが、保険適用外のため患者の費用負担が1人あたり7万〜10万円と大きい。装置を導入している砂川市立病院の細田充主・乳腺外科部長は「患者の負担に加え、治療の時間が長くなることから、道内では導入が進んでいない」という。

同社は価格を抑えるため、帽子の海外生産も模索している。松岡正昭社長は「固まらない保冷剤であれば、頭皮を冷却しやすくなるはず。少しでも早く商品化して、脱毛で苦しむ患者をサポートしたい」と話している。

抗がん剤治療の脱毛抑制

専用帽子とセット販売目指す